

日銀神戸
支店長の
視点

竜田博之氏



先日までユニバー記念競技場で開催されていた世界パラ陸上競技選手権大会ですが、私が応援に行った大会3日目の朝の部では、日本人メダリストも誕生しました。夜の部では、あいにくの雨にもかかわらず、世界トップアスリート達が躍動する姿は大変素晴らしい、感動しました。

私は、大学時代に障害者スポーツの存在を知り、以降、微力ながら同スポーツを応援してきました。チャリティー枠が創設されて以来、12回皆勤で出場している「東京マラソン」でも、公益財団法人日本パラスポーツ協会（JPSA）に寄付して、長年、同団体推薦のチャリティーランナーとして参加しています。その縁で、協会窓口の北沢様をはじめ、関係者の方々とも

インクルーシブ社会に向けて

交流させていただいています。ちなみに、世界パラ陸上の大会組織委員会の増田明美会長は、一般社団法人日本パラ陸上競技連盟（JPA）の会長でもあり、JPAはJPSAに加盟しています。

当県では、昨年4月、年齢や障害の有無にかかわらず、さまざまな方が気兼ねなく旅行を楽しめる環境を整備するため、①人づくり、②宿・施設づくり、③エリアづくりの3本の柱からなる全国初の、通称「ユニバーサルツーリズム推進条例」が施行されました。

今回、世界各国のパラ陸上競技関係者が県内に多く宿泊しました。兵庫県および神戸市では、今後も、来年の大阪・関西万博や2030年の神戸空港への国際線の就航等が控えているだけに、世界にも目を向けた、インクルーシブ社会の実現に向けて、地道な取り組みが一つずつ実を結んでいくことが大切になりますし、そうなることを心より願っています。